

# 国立研究開発法人 産業技術総合研究所 関西センター C-6 棟

充分なフレキシビリティを備えた環境配慮型研究施設

- 所在地：大阪府池田市緑丘1丁目
- 用途：研究施設
- 建築主：国立研究開発法人 産業技術総合研究所
- 設計者：株式会社安井建築設計事務所

- 敷地面積：4,227.00 m<sup>2</sup> (CASBEE 用仮想敷地)
- 建築面積：1,821.11 m<sup>2</sup>
- 延べ面積：4,437.47 m<sup>2</sup>
- 構造：鉄骨造
- 階数：地上3階、地下1階
- CASBEE 評価：A ランク / BEE 値 2.0
- 重点評価：CO<sub>2</sub>削減 3.8 / 省エネ対策 3.8  
みどり・ヒートアイランド対策 2.5



南西側外観



南側外観 (メインストリートより)



北東側外観

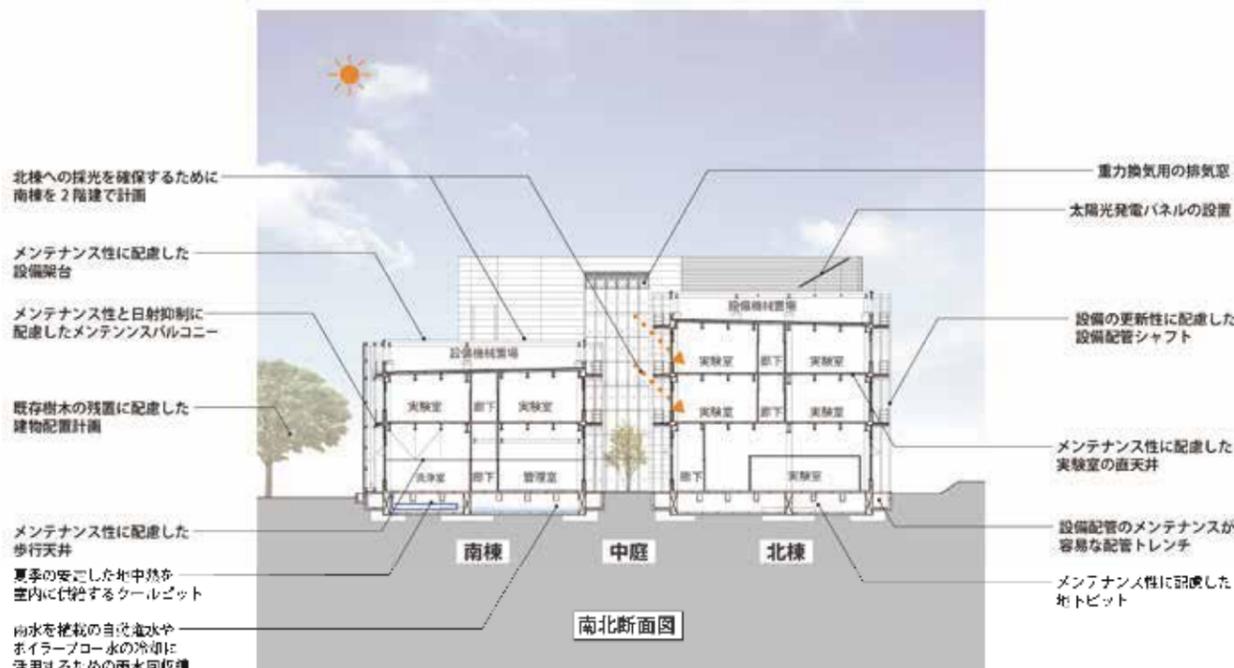
## 【立地、周辺環境】

国立研究開発法人産業技術総合研究所関西センターは、大阪北部の静かな住宅街の中にあり、緑豊かな環境に恵まれた研究施設である。計画敷地はこの敷地内のほぼ中央、正門から事務庁舎へ至るメインストリートに面した一角にある。

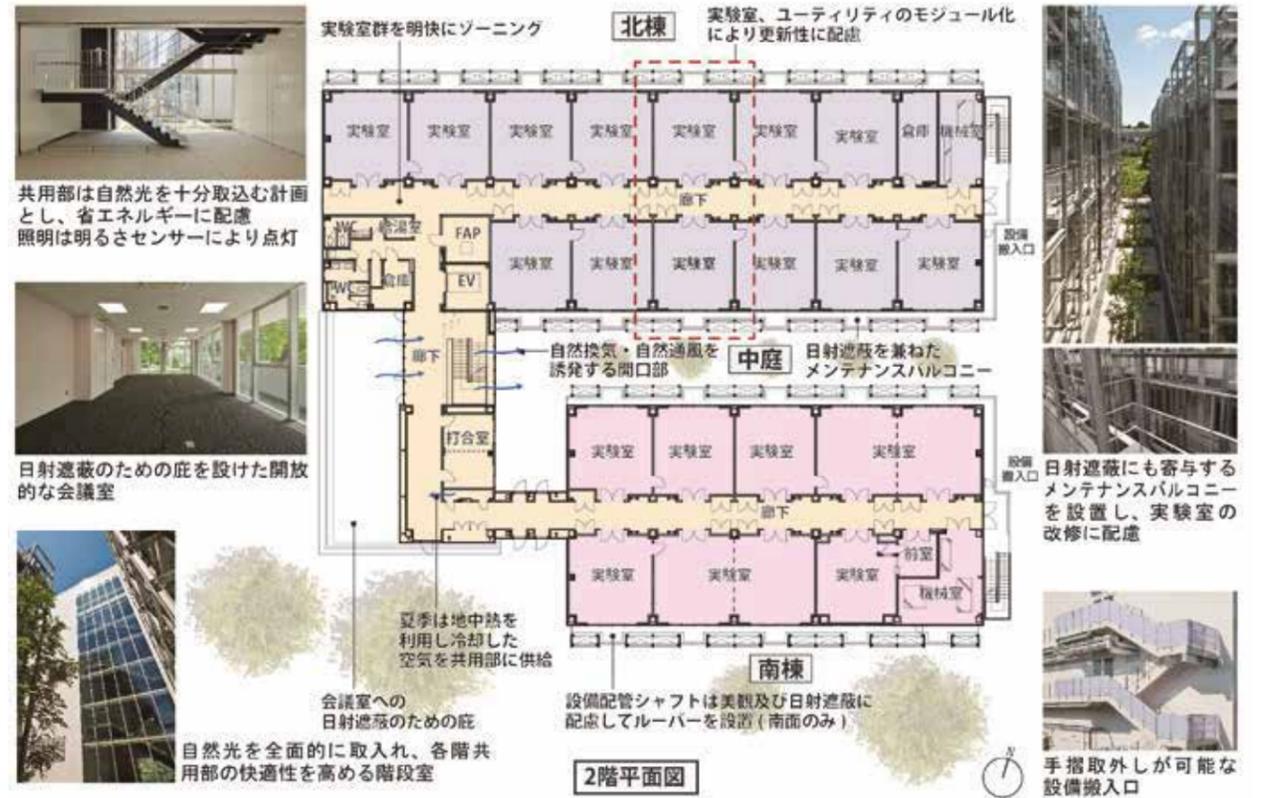
## 【総合的なコンセプト】

フレキシビリティを備え常に最先端の研究プロジェクトに対応できる低環境負荷型建築の実現を目指し、必要な機能および採用可能な環境技術を適切にデザインすることにより、経済性に配慮した明快でシンプルな建物とした。また、既存の緑地および樹木を可能な限り残置する配置計画およびスパン構成とし、メインストリートからの景観、および周辺環境やヒートアイランド対策に配慮した。

## 建物断面構成図



## 環境配慮事項とねらい



## ■ 充分なフレキシビリティを備えた計画



外部に設備配管シャフトを設け、配管配線をクリップ止めとすることにより、構造部材を痛めることなく、設備の改修を容易に

廊下 (左) および標準実験室 (右) を直天とするここと、ケーブルラックの設置等により、将来の建築設備や実験設備の更新性に配慮

クリーン度を要求される実験室には歩行天井を採用し、メンテナンス性や設備の更新性に配慮

屋上の設備機械置場は、床面から約2mの高さに架台を設けることにより、上下からのメンテナンスや更新を可能にするとともに、充分な将来スペースを確保

## ■ 自然エネルギーを活用する計画



デザインされた外気採入口 (左) より取り入れた空気を、地中熱によって冷却し共用スペース (右壁上部吹出口) に供給 / 雨水回収槽 (右写真下部) の設置により、雨水を植栽の自動灌水やボイラールーム水の冷却に活用

## ■ 地球環境、地域環境にやさしい計画



環境負荷低減に寄与する、屋上に設置した太陽光発電パネル (20kW)

浸透性舗装や浸透トレンチの採用により雨水の流出防止を図るとともに、ヒートアイランド対策にも配慮した外構計画

分節化された建物ボリュームにより景観や周辺環境との調和を図るとともに、既存樹木を可能な限り残置する配置計画によって、温暖化の抑止や CO<sub>2</sub> を削減